

# 自閉スペクトラム症児の子供との関わりの アセスメントと支援（1）

— 子供同士のコミュニケーションでのブレイクダウンと保育者の介入のアセスメントによる支援方法の検討 —

○長崎 勤<sup>1</sup> 若井広太郎<sup>2</sup> 吉井勘人<sup>3</sup> 板倉達哉<sup>4</sup> 伊藤和佳<sup>5</sup>

(<sup>1</sup> 実践女子大学生生活科学研究科) (<sup>2</sup> 筑波大学附属大塚特別支援学校) (<sup>3</sup> 山梨大学大学院総合研究部教育学域)  
(<sup>4</sup> 文京学院大学心理臨床福祉センター) (<sup>5</sup> 江東区こども発達センター塩浜 coco)

KEY WORDS: 自閉症児と他児との関わり ブレイクダウン 保育者 介入

**I.問題と目的:** 現在、多くの障害児がインクルーシブ(包摂的)な保育を受けているが、感覚過敏等からコミュニケーションの破綻(ブレイクダウン)によって子供同士の関わりが困難になり、クラスでの孤立、不適応などを示すことが多い。本研究では、これを回避するために、ブレイクダウンを起こしたエピソード分析から①ブレイクダウンの発生要因、②その回復・修正での保育者の対応、③回復・修正の結果について、アセスメントする方法と、アセスメントに基づいた子供同士の関わりについてコンサルテーションを行う保育者支援方法を検討する。

**II.方法:1. 対象児:** B 特別支援学校幼稚園に通う自閉スペクトラム症 (ASD) 幼児 2 名。F 児 (男児、CA6:0、IQ:87)、G 児 (女児、A5:8、DQ:51)。F 児は公立 C 幼稚園の年長クラス、G 児は私立 D 幼稚園の年中クラスに週 3~4 日在籍。本研究では F 児の G 児との関わりと保育者 (本研究では教員) の支援について検討する。

**2. 子供同士の関わり方についてのエピソード分析の方法:** 7-9 月に幼稚園での 1 回 1 時間の自由遊び時間を 3 回観察し、子供同士の関わりで生じたブレイクダウンの前後のエピソードについて、Table1 のカテゴリを用いて「ブレイクダウン前の共有の水準(SS1)→ブレイクダウンの様相(B1)→保育者の支援・調整的介入(I)→ブレイクダウンの回復・修正

(B2)→介入後の共有の水準 (SS2)」のプロセスを分析し、ブレイクダウンの発生要因、またその回復・修正における保育者の役割をアセスメントする(Fig.1)。

**3.支援方法:** アセスメント結果に基づき、保育者と意見交換を行い、F 児と G 児との関わりの支援方針を立てる。

**III.アセスメント結果:1. ブレイクダウン:** F 児の意図が伝わらないこと(83%)で関わらなくなったことが多かった。**2. ブレイクダウンに対しての保育者の介入の仕方(Fig.2):** 「保育者の支援・調整的介入」は、言語の代弁による介入が 70%、見守り、他児への援助が各 10%前後であった。**3. 共有の水準の変化(Fig.3):** ブレイクダウン前の共有水準(SS1)と保育者の介入後の共有水準(SS2)を比較すると、SS2 では、「やや低い」比率が 50→25%へと減少し、「高い」が出現し、ブレイクダウンへの保育者の介入の一定の効果が見られた。

## IV. F 児(G 児)への支援の方向性(保育者との話し合い)

1. 保育者の距離を置いた代弁が多いが、F 児の代弁模倣は見られない。F 児の代弁模倣を促し、明確化要求などの橋渡しをする。G 児では、言語理解を促す。  
2. F 児と G 児の発達・特性を考慮し、相手への注目やゴールの理解、また役割交代を促すために、スクリプトを持つ活動を設定する方向性が話し合

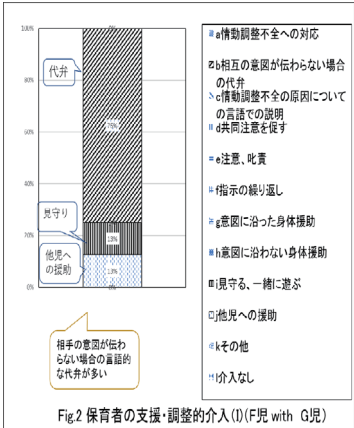
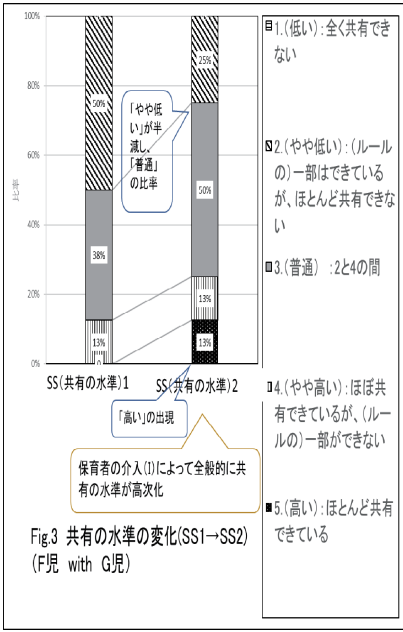
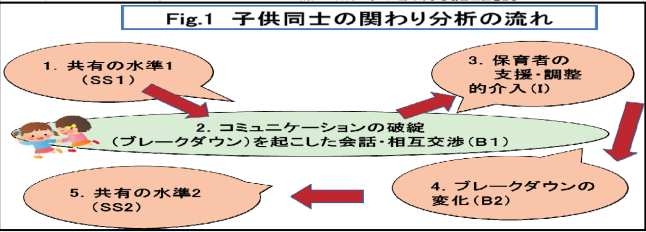


Table 1 子供同士の関わり分析カテゴリ (VER10.2)			
記号	カテゴリ名	下位カテゴリ	
lp	保育者による共有の促し	a. 身体援助・物による促し b. モデル提示による促し c. 言語指示による促し d. 促しなし(見守る、黙っている、気づく)	
SS1	共有の水準 (Sharing Story)	1. (低い): 全く共有できない 2. (やや低い): (ルールの) 一部はできているが、ほとんど共有できない 3. (普通): 2と4の間 4. (やや高い): ほぼ共有できているが、(ルールの) 一部はできない 5. (高い): ほとんど共有できている	
B1	ブレイクダウン (Break down)	情動・意図状態 (BE1)	a. 情動調整不全(行動・言語×自己・相互)4通りの組み合わせ うすくまる(行動×自己) 無視(行動×自己) けんか(行動・言語×相互) 拒否(行動・言語×自己) b. 相手の意図が伝わらない c. 相手の意図が伝わらない d. その他
		行動形態 (BB1)	a. 離脱 b. 参加しない 指示に答えない、指示が理解できない、協同活動しない。 c. TIに援助を求める d. その他
I	保育者の支援・調整的介入 (Intervention)	a. 情動調整不全への対応(行動・言語×自己・相互)4通りの組み合わせ 「伝達(自己×言語)」「仲介(行動・言語×相互)」 * 情動調整不全を起こした場合のみ使用 b. 相互の意図が伝わらない場合の伝達(モデル提示) c. 情動調整不全の原因についての言語での説明(目標、役割について) (相手の意図が伝わらない) d. 共同注意を促す、協同活動を促す。 e. 注意、叱責 f. 指示の繰り返し g. 意図に沿った身体援助 h. 意図に沿わない身体援助 i. 見守る、一緒に遊ぶ j. 他児への援助(一時的) k. その他 l. 介入なし	
		情動・意図状態 (BE2)	a-1. 情動調整不全(行動・言語×自己・相互)4通りの組み合わせからの回復 a-2. 情動調整不全を維持(持続) a-3. 情動調整不全が解消されない。 a-4. 情動調整不全がひどくなる b-1. 自分の意図が伝わる b-2. 自分の意図が伝わらない状態を維持 c-1. 相手の意図が伝わる c-2. 相手の意図が伝わらない状態を維持
B2	ブレイクダウンの変化	行動形態 (BB2)	a-1. 「離脱」から戻る(参加する) a-2. 「離脱」したまま b-1. 参加するように促す b-2. 参加しなくてもいい c. 問題解決の方向を獲得する d. その他
SS2	共有の水準 (Sharing Story)	1. (低い): 全く共有できない 2. (やや低い): (ルールの) 一部はできているが、ほとんど共有できない 3. (普通): 2と4の間 4. (やや高い): ほぼ共有できているが、(ルールの) 一部はできない 5. (高い): ほとんど共有できている子ども同士行動の変化(調整結果)	



費補助金・基盤研究(C)の補助を得た。実践女子大学および筑波大学附属大塚特別支援学校の研究倫理委員会の審査を受け承認された。F 児、G 児の保護者、また研究に協力いただいた根岸由香、藤島瑠利子、飯島徹 (筑波大学附属大塚特別支援学校)、天野美緒 (織田学園おだ認定こども園) の各氏に感謝します) (NAGASAKI Tsutomu, WAKAI Kotaro, YOSHII Sadahito, ITAKURA Tatsuya, ITO Nodoka.)